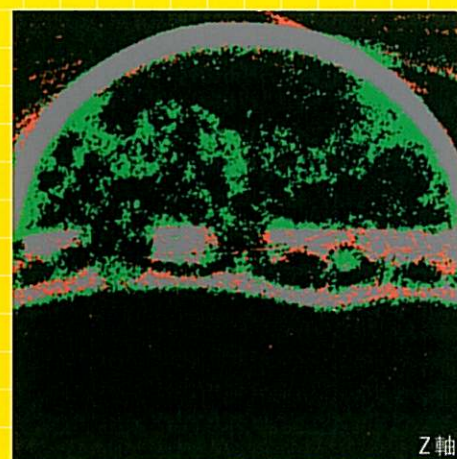
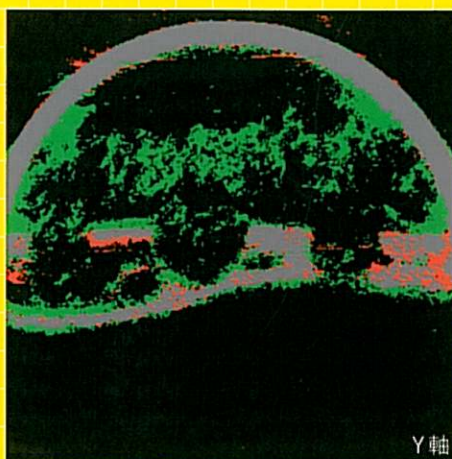
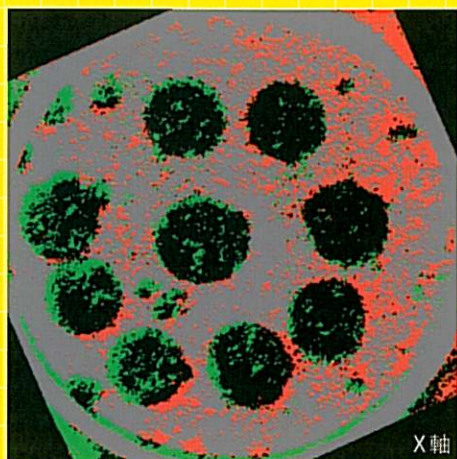


# 日本歯科評論 2

THE NIPPON DENTAL REVIEW

February 2011 No.820 Vol.71(2)



日本大学歯学部 保存学教室 歯周病学講座  
佐藤秀一先生・伊藤公一先生 <私の研究室から>本文9頁

〈特集〉

## 医科・介護から期待される口腔ケアの力

——他職種の現場に歯科が飛び込むには？

植田耕一郎・武原 格・石山寿子・前田恵津子・飯田五十平ほか

“DH”あなたの出番です！

## 細菌検査を用いた重度広汎型慢性歯周炎治療の1症例

津田志麻・河野寛二



# Dentistは公共事業の請負人！ Dental Artistは個性の開花！

なかほら えつ お  
中原 悦夫

医療法人社団協立歯科 クリニック デュボワ  
〒100-0011 東京都千代田区内幸町1-1-1 帝国ホテルプラザ4階



歯科医師一人ひとりの“個性の開花”，それが近代歯科医療に欠かせない歯科医師の心のスタンスになってくる。われわれもそろそろ公共事業的医療から脱却し、患者個人の感性に応える医療を提供することが求められているのではない。

現在の歯科医師は世界的にDentistryに基づいたDentistという位置付けであり、歯科医師といえども医師とは分けられている。本来、内科医はPhysician、外科医はSurgeonであり、-tistとは“歯(Dent)を専門に扱う人”といったところで、-cianや-geonとは一線を画す。これはかつてのむし歯の大流行に対処すべく、医科から歯科を切り離し、より効率的に歯の修復に特化した歯科医師を養成した先進国の一種の公共事業のようなものである。それを福祉医療という位置付けにおいて国家が統括し、患者もそれに従ってこの公共事業的医療を受け入れてきた。当然、選択肢はあまり

与えられていなかった。

## 感性は個人の中で一貫している

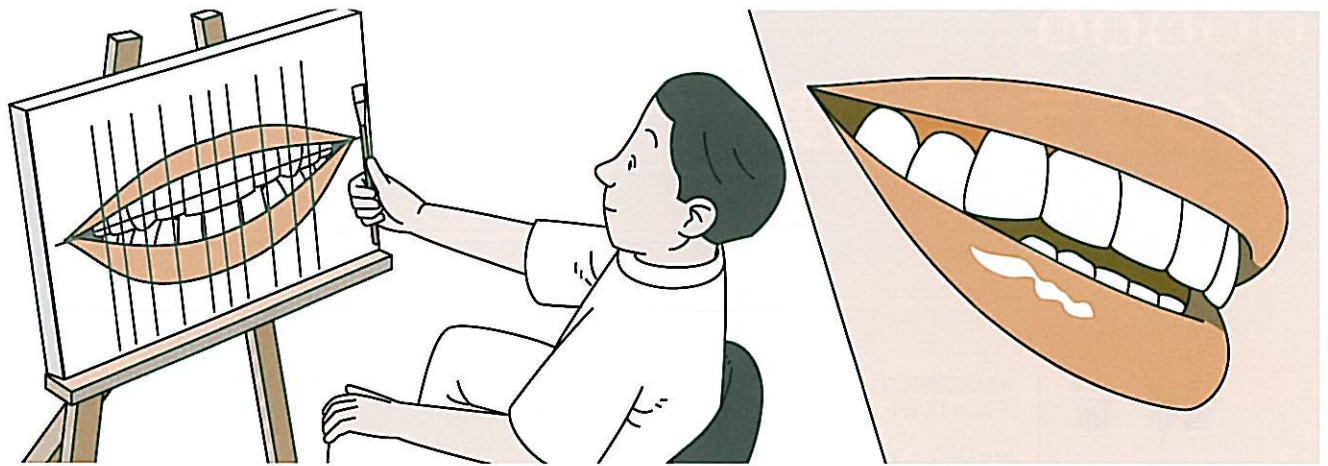
長い間、“歯科医師(Dentist)”とは、日本においては保険医という名のもとに“公共事業的歯科医療を担う人”であった。今も大方は変わらないし、置かれた状況も変わらない……と思っているのは、われわれ歯科界の人間だけかもしれない。

しかし、現在は歯科医学の進歩、特に齲蝕や歯周病の原因が解明され予防医学が進んだことに歯科医師数が増えたことも加わって、国民の口腔の健康状態はかなり改善してきている。こうした環境の変化は、患者の選択肢が増えて“選べる時代”にシフトしてきたということであり、つまりわれわれ歯科医師が選ばれる立場になったということでもある。これはもはや単なる流行ではなく、社会的な変化が起き始めている。そうすると、知りたくなるのは“患者がクリニックや歯科医師、あるいは

治療を選ぶときの基準は何なのだろうか？”ということだ。歯科界に“マーケティング”という言葉が飛び交うようになったのも、元はといえば、社会的な変化に経営が影響される時代になった象徴である。

自らを「コンセプター」と称する坂井直樹氏の言葉を拝借すれば、「感性は個人の中で一貫している。たとえば、ベントレーやロールスロイスを選ぶ人の感性は、貴族的であり、祖父や祖母の影響を受けており、生活様式に秩序と統一感、持続性を求める。当然、身の回りのものは、一貫したその感性のもとに選ばれている。オーディー TT やスカイライン GT-R を選ぶ人の感性は、日常生活においても自分自身のアートを満足させる美的な生き方を追求する。合理的で整理整頓された空間に美を感じるタイプであり、ホテルの選び方からしてその価値観は影響している……。自己表現とは、小説を書いたり、絵を描いたりすること





ばかりではない。最も簡単な自己表現は消費することである」となる。

クリニックや歯科医師を選ぶときの価値観にもこれらの感性は当然影響していると思われるが、特に治療内容に関しては、その人の一貫した感性で選択している。たとえば機能性重視に始まり、安全性、審美性、MI、評判、学歴、専門性、人間性、自由診療、保険診療、時間、期間……等、重視される内容を挙げるときりが無い。患者の感性は、われわれの医療の本質とは別のものを観ていると言わざるを得ない。そして、これらの感性を漂わせる組み合わせを考えると天文学的となり、もはや芸術的な処理でしか対応できない。

### Dental Artistの登場

その中で、何を創造していけるのか。たとえばダイレクトボンディングは、われわれの臨床的個性を最大限に引き出してくれるテクニックとして、単に修復としての接着性や強度の向上、あるいは審美的な色彩の

向上に留まらず、その多様性は咬合治療や歯周治療、そして矯正治療へと応用範囲を広げている。

さらにダイレクトボンディングは、われわれに潜在的な多くの創造性を与え、既存の治療計画に斬新な組み合わせが生まれたり、MIでは不可能とされた処置を可能にしたりもする。たとえば、磨耗歯をそのまま矯正するか、途中でダイレクトボンディングによる修復を段階的に加えながら矯正するかとでは、おのずと矯正のゴールは違ってくる。

歯科界は今、従来の修復や補綴といった回復的歯科医療から、予防的ケアあるいは学際的アプローチといった、創造的歯科医療へとパラダイムシフトしている。またマイクロスコープの普及により、より精度の高い治療やケアが可能になり、MIに基づいた治療がさらに現実味を帯びてきている。

そんな中でブラジルの Dr. Newton Fahl, Jr. は、これまで口腔外でしか実現できなかった精密な作

業をすべて口腔内で行えるようその技法をまとめ上げ、コンポジットレジンの特性を最大限に引き出している。そしてその表現方法は、われわれに Dental Artist への道を切り開いてくれている。彼の臨床はダイレクトボンディングに特化した専門医である。しかし、単なる修復の専門医ではない。補綴治療、修復治療、歯周病治療、矯正治療……といった各専門分野において、ダイレクトボンディングを盾に自らの個性を開花する治療を縦横無尽に進めている。つまり、専門を超えた専門性を確立し、患者の感性を受けながら、自らもその感性を活かして自由に治療をこなしているのである。

われわれの自己表現はダイレクトボンディングに限らない。矯正であったり、講演であったり、人それぞれである。彼のように自らの思いを歯科医療の世界で自己表現している“Dentist”は、もはや公共事業の枠を通り越している。まさに個性を開花させた“Dental Artist”である。